諮問庁：厚生労働大臣

諮問日：令和6年2月21日（令和6年（行情）諮問第160号）

答申日：令和7年1月29日（令和6年度（行情）答申第848号）

事件名：肝炎ウイルスの存在を証明する科学的根拠等の開示決定に関する件（文書の特定）

答 申 書

第1 審査会の結論

別紙の1に掲げる文書（以下「本件請求文書」という。）の開示請求につき、別紙の2に掲げる各文書（以下、併せて「本件対象文書」という。）を特定し、開示した決定については、本件対象文書を特定したことは、妥当である。

第2 審査請求人の主張の要旨

1 審査請求の趣旨

本件審査請求の趣旨は、行政機関の保有する情報の公開に関する法律（以下「法」という。）3条の規定に基づく開示請求に対し、令和5年10月26日付け感染研発第583号により国立感染症研究所長（以下「処分庁」又は「諮問庁」という。）が行った開示決定（以下「原処分」という。）について、その取消しを求めるものである。

2 審査請求の理由

審査請求人の主張する審査請求の理由は、審査請求書及び意見書の記載によると、おおむね以下のとおりである。

(1) 審査請求書

ア 審査請求の趣旨及び理由

(ア) 開示期限不順守（期限延長連絡はあったが、それを約1ヶ月超える）

(イ) 法律違反（総務省に確認済）。期限内に開示出来ないなら不開示通知を出せ。

(ウ) 口裏合わせや、証拠隠滅等の時間に費やしたのでは？との疑いがある。

法治国家、国民主権を守るため

(2) 意見書

ア 添付した厚労省の不開示決定通知と整合性のとれる回答要求

イ 厚労省の言う「ウイルスによって感染することが記されており開示請求の係る行政文書として特定した事は妥当である」なのに返事が遅い事で何かを隠そうとしてたと疑わしいと私は疑ってる。期限を守らなくても返事をしなかったのは誰の指示か説明が無い。期限は守れたはず。

ウ 厚労省の言う「ホームページで公開されてることからしても証拠隠滅ではない」とあるのは私の説明不足ですが、私や国民の知らない所で何か証拠隠滅、口裏合わせを疑ってる、という事です。理由は期限を守らなかったから。

第3 諮問庁の説明の要旨

1 本件審査請求の経緯

- (1) 審査請求人は、令和5年7月13日付け（同日受付）で処分庁に対して、法3条の規定に基づき、本件請求文書に係る開示請求を行った。
- (2) これに対して、処分庁は、令和5年8月8日付け感染研発第438号により、法10条2項の規定に基づき開示決定等の期限を同年9月19日まで延長する旨を通知し、同年10月26日付け感染研発第583号により、原処分を行ったところ、審査請求人はこれを不服として、同年11月13日（同月15日受付）で本件審査請求を提起したものである。

2 諮問庁としての考え方

本件審査請求については、原処分は結論において妥当であり、これを維持することが相当である。

3 理由

(1) 原処分の妥当性について

ア 審査請求人の主張について

(ア) 審査請求人は、審査請求書において、本件延長通知による延長後の開示決定等の期限を徒過して開示決定が行われたことが違法である旨を主張し、口裏合わせや証拠隠滅等が疑われるとして、原処分の内容についても、違法である旨を主張するものと解される。

(イ) この点、本件延長通知による延長後の期限を徒過したことが法10条に違反することは明らかであるが、既に原処分が行われているところ、これを取り消して、改めて、原処分と同じ開示決定を行う意味は無いから、延長後の期限を徒過したことを理由に、本件審査請求を認容することは相当でない。

イ 原処分の妥当性について

(ア) 処分庁は、開示請求に係る行政文書として、別紙の2に掲げる本件対象文書を特定し、その多くが国立感染症研究所ホームページから閲覧可能である旨案内した上で全部開示している。

(イ) 本件対象文書には、B型肝炎、C型肝炎がウイルスによって感染することが記されており、開示請求に係る行政文書として特定したことは妥当である。

また、これらの文書の多くがホームページで公開されていることからしても、証拠隠滅等があったとする審査請求人の主張は失当であると言わざるを得ない。

(ウ) したがって、原処分の結論は妥当である。

4 結論

よって、本件審査請求については、原処分は結論において妥当であり、これを維持することが相当である。

第4 調査審議の経過

当審査会は、本件諮問事件について、以下のとおり、調査審議を行った。

- ① 令和6年2月21日 諮問の受理
- ② 同日 諮問庁から理由説明書を收受
- ③ 同年4月8日 審査請求人から意見書を收受
- ④ 同年12月10日 審議
- ⑤ 令和7年1月22日 審議

第5 審議会の判断の理由

1 本件開示請求について

本件開示請求は、本件請求文書の開示を求めるものであるところ、処分庁は、本件対象文書を特定した上で、その全部を開示する原処分を行った。

これに対し、審査請求人は、審査請求書において、処分庁が口裏合わせや証拠隠滅等を行った疑いがある旨等を主張し、諮問庁は原処分を妥当としている。審査請求人の主張は、処分庁が隠蔽した疑いを抱いているものとも解されることから、以下、本件対象文書の特定の妥当性について検討する。

2 本件対象文書の特定の妥当性について

(1) 本件対象文書の特定について、当審査会事務局職員をして、諮問庁に補足説明を求めさせたところ、以下のとおり説明する。

ア 国立感染症研究所には、研究を専門に行う部・センターが20以上あり、本件対象文書は、ウイルス第二部の関係部署が、肝炎ウイルス等に係る研究を行っている中で保有したものである。

イ 本件対象文書の開示に当たっては、肝炎ウイルスを主に研究しているウイルス第二部の研究者が文書の有無を確認し特定を行っており、特定された文書は、保有目的を果たすために十分な資料である。

ウ 念のため、関連部署の共有フォルダ、書棚等を改めて探索したが、本件対象文書の外に本件開示請求の対象として特定すべき文書の存在は確認できなかった。

(2) 審査請求人は、処分庁が口裏合わせや証拠隠滅等を行った疑いがある旨主張するが、その具体的な根拠や、それを裏付ける又はうかがわせる事情を示しているとはいえ、文書の特定に係る諮問庁の上記(1)の説明については、これを覆すに足りる特段の事情を認めることはできない。また、諮問庁が説明する文書の探索の範囲等についても不十分とはいえない。

したがって、本件対象文書以外に、本件請求文書に該当する文書を保有していないとする諮問庁の説明は、是認せざるを得ない。

3 審査請求人のその他の主張について

- (1) 審査請求人は、意見書において、厚生労働省が令和5年7月24日付け厚生労働省発健0724第2号にて行った不開示決定について言及し、当該決定(文書の不存在による不開示決定)が本件開示決定と異なる点を指摘しているが、当該決定と原処分では処分庁が異なることから、それぞれの機関における文書の保有状況の違いに応じ、決定内容が異なったとしても直ちに不自然とはいえないものと考えられる。
- (2) 審査請求人は、その他種々主張するが、いずれも当審査会の上記判断を左右するものではない。

4 付言

処分庁は、令和5年7月13日付けの開示請求に対して、法10条2項を適用して開示決定等の期限を同年9月19日に延長したが、実際の原処分は同年10月26日付けである。このことは、法の規定に反した不適切な措置であったと認められ、今後は、法の制度趣旨を十分に理解した上で適切な対応をすべきである。

5 本件開示決定の妥当性について

以上のことから、本件請求文書の開示請求につき、本件対象文書を特定し、開示した決定については、国立感染症研究所において、本件対象文書の外に開示請求の対象として特定すべき文書を保有しているとは認められないので、本件対象文書を特定したことは、妥当であると判断した。

(第3部会)

委員 長屋 聡、委員 久末弥生、委員 葭葉裕子

別紙

1 本件請求文書

肝炎ウイルスの存在を証明する科学的根拠、論文や文書等の開示と、肝臓がんの最大の原因は肝炎ウイルスであるのであれば根拠となる科学論文や文書等の開示

2 本件対象文書

- ① 「病原微生物検出情報 Vol. 37 No. 8 (No. 438) 2016年8月発行」
- ② 「病原微生物検出情報 Vol. 42 No. 1 (No. 491) 2021年1月発行」
- ③ 「病原微生物検出情報 Vol. 44 No. 3 (No. 517) 2023年3月発行」
- ④ 「B型肝炎とは (2013年06月19日改訂)」
- ⑤ 「C型肝炎とは (2013年06月19日改訂)」
- ⑥ 「B型肝炎ワクチンに関するファクトシート (平成22年7月7日版)」